

「伊方原発をとめる大分裁判の会」
応援団の共同代表



宇都宮 陽子さん(51)

ひと

対岸にある四国電力伊方原発(愛媛県伊方町)の再稼働をやめてほしいと、大分県内の住民有志が提訴に向けて7月に結成した大分裁判の会。裁判の傍聴や資金援助など、運動をさまざまな形で支える応援団の顔になった。

「命と原発は共に生きていけない。未来を担う子どもたちを育てている親たちに現状を知ってもらい、大きな運動にしていきたい」。応援団メンバーは徐々に増加。さ

現状を伝え大きな運動に

らに輪を広げようと、原発をテーマにした映画の上映会を各地で開く準備を進めている。

30代で娘を産んだのを機に物の見方が変わったという。「食べ物、平和、原発…。今の世の中これでもいいのか、と疑問を持つようになった」。グリーンコープ生活協同組合においたの組合員になり、脱原発の署名活動などに取り組んできた。「伊方原発は大分の目と鼻の先にある。国が安全と言っているからといってうのみにせず、自分で考えなければ」と訴える。

6月の総会で同生協理事長に就いた。植物を育てることで心と体のリハビリを促す園芸療法士としての顔も持ち、定期的に障害者施設を訪問している。

宝塚歌劇、歌舞伎など観劇が趣味。「芝居を見るのがストレス発散」。好きな言葉は「廉」で、「清い心で生きよう」と心掛けている。大分市出身。同市内で家族と暮らす。(藤内教史)

6月4日と7月2日の集会 (両方とも満員でした)

伊方は原発被害を許さない
をとめる大分裁判の会



← 弁護団を代表して挨拶する河野善一郎弁護士



↑ 6月4日の河合弘之弁護士の講演
↓ 河合弘之弁護士

↑ ↓ 7月2日の伊方原発をとめる大分裁判の会結成集会

